

令和4年度練馬区立豊玉中学校 学校評価報告書

練馬区立豊玉中学校
校長 江川 誠志

1 自己評価結果

(1) 概要

生徒、保護者、地域関係者、教職員のアンケート調査、令和4年度学校経営計画の具体的方策をよりどころとした教育調査を基に、年度末に自己評価を行った。この結果をまとめると以下のようなになった。

ア 今年度の成果

「学校行事への真剣な取組」や「命の授業を通して、命の大切さを学ぶ」、「規範意識や基本的な生活習慣の確立」、「4人組を軸にした豊中スタンダードの確立」、「係活動や委員会活動への取組」、「ピア・サポートプログラムの全校体制での実施と生徒のリレーションづくり」等で成果が見られた。

イ 次年度への課題

「家庭学習の習慣を身に付けさせるための支援」や「講話を工夫し、人生観や生き方について考えを深めさせる」、「夢や志をもち、困難を乗り越え、幸福な人生の創り手となっていけるような支援」等に課題がある。

ウ 次年度に向けた改善点

全ての授業で論理的思考型授業を展開し、チーム学習による深い学びの実現を各教科の実情に応じて工夫・改善することで、「学びの主体者」として必要な学びスキルを習得させる。また、新学習指導要領のカリキュラム・マネジメントの内容を踏まえ、夢と志をもち、可能性に挑戦するために必要な力を育むために、総合的な学習の時間を活用してキャリア教育の充実を図る。

(2) 根拠となる資料

令和4年度 豊玉中学校の教育調査（アンケート）結果＜生徒・保護者・教職員＞

指標	【とてもそう思う	5点】	┌	(肯定的評価)
	【どちらかと言えばそう思う	4点】	└	
	【どちらかと言えばそう思わない	2点】	┌	(否定的評価)
	【そう思わない	1点】	└	
	【わからない	0点】		(不明)

※ 最高値5.0、最低値1.0、到達目標は4.0、重要課題は3.5未満

評価項目	生徒	保護者	教職員
1 授業規律の徹底と、ピア・サポートプログラムを全校体制で行い生徒のリレーションづくりを進める。	4.3	4.1	4.5
自己評価についての評価結果および主な意見			
年間を通して計画的にピア・サポートプログラムを実施することができた。学級のリレーションづくりが確実に進んでいると考える。他者を受け入れることができ、かつ柔軟な対応がとれる態度の育成が必要である。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
ピア・サポートプログラム実践の場を多く設け、その実践の振り返り、必要なスキルを身に付ける指導を行う。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
2 学力向上プロジェクトの確立・検証期と位置付け、4人組を軸にした豊中スタンダードを確立する。	4.4	4.0	4.7
自己評価についての評価結果および主な意見			
学力向上プロジェクト4年目を迎え、4人組話し合い活動は十分に定着している。全ての授業で主体的で対話的な学習が展開されている。ただし、対話を通じた思考の深まりが課題である。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
対話のための前提知識を定着させること、表や数値を読み取る力を付けるよう各教科において取り組むことで、論理的に考える力を身に付けさせる。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
3 課題解決を中心とした授業改善を通して、自己表現力、プレゼンテーション能力の伸長を図る。	4.2	3.6	4.2
自己評価についての評価結果および主な意見			
総合的な学習の時間に、1学年は「校外学習」、2学年は「校外学習」「志発掘」、3学年は「日本の魅力を世界に発信する」の学習を通し、自ら課題設定をし、考え調べて発表する力を養うことができた。3学年は海外の方に向けた、英語を使った発表に取り組むことができた。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
自分の意見をまとめる時間を保障し、全ての生徒に自分の考えを発表できるまでの見通しをもたせる。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
4 各教科で、家庭学習の習慣を身に付けさせるための働きかけや支援を行う。	3.8	3.0	3.2
自己評価についての評価結果および主な意見			
単元のゴールや課題を明確にし、「思考・判断・表現」の評価を重視したことで、見通しをもつ生徒が増えた。しかし、自主的な家庭学習など、学習の目標を立て、自らの学習を調整する力が十分ではない。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
各教科、各学年で重点的に身に付けさせたい力を、教師・生徒がお互いに共有し、それを意識して学習に取り組めるように授業改善を図る。また、振り返りを次の学習につなげられるように、改善すべき具体的な行動を考える習慣づくりを行う。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
5 人に対する思いやりや礼儀、他者との違いを理解し認め合いながら生きる生徒を育てる。	4.1	3.9	4.8
自己評価についての評価結果および主な意見			
道徳の時間などを通して、他者の意見を尊重する姿勢が多くの生徒に見られるようになった。しかし、授業で学んだことを、積極的に日常生活の実践につなげられていない生徒も見られる。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
道徳授業で、対話を重視した授業を展開し、お互いが認め合い、本音で語り合えるように授業改善を図る。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
6 夢や志をもち、困難を乗り越え、幸福な人生の創り手となっていけるように支援を行う。	4. 1	3. 5	4. 4
自己評価についての評価結果および主な意見			
意図的計画的なキャリア教育を通して、将来について考え、行動しようとする生徒の姿が見られた。しかし、遠い将来の夢や志をもっているが、それを具現化しようとする行動につなげられていない。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
夢や志を具現化するための思考や手立てについて学び、活動の充実を図っていく。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
7 規範意識や基本的な生活習慣を確立させる。	4. 4	4. 1	4. 9
自己評価についての評価結果および主な意見			
多くの生徒が基本的な生活習慣を身に付け、規範意識をもって生活できている。全ての教育活動を通して、社会生活の基本的なきまりや規範意識をもとに、適切に判断し行動しようとする態度を身に付けさせる。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
基本的な生活習慣の定着が見られない生徒については、夢手帳を活用しながら、生活改善のPDCAサイクルを回せるようサポートする。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
8 防犯、防災、交通安全についての正しい知識を身に付けさせる。	4. 4	3. 9	4. 6
自己評価についての評価結果および主な意見			
避難訓練、安全指導を毎月計画的に行ったことで、多くの生徒が、防犯、防災、交通安全についての正しい知識を身に付けている。毎月、安全指導と避難訓練を継続して実施する。生徒に、正しい知識と共に、自分で考えて身の安全を守る行動ができるようにする。また、いろいろな場面を想定した避難訓練を実施する。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
生徒に避難訓練等の振り返りを行い、感じたことや考えたことを夢手帳に記録を残させる。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
9 インターネットやSNSについての正しい知識を身に付けさせる。	4. 3	3. 7	4. 2
自己評価についての評価結果および主な意見			
多くの生徒が情報モラル教室や安全指導を通して、インターネットやSNSの正しい使い方を理解している。ただ、知識として理解していても、SNSの正しい使い方を実践できていない生徒もいる。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
機会があるごとにインターネットやSNSの正しい使い方を身に付けさせたり、家庭でのSNSルール作りを推奨していく。また、家庭で許可をしているSNS端末の使用状況を、定期的に保護者に確認してもらったり、4月に生徒と保護者向けの情報モラル教室を実施する。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
10 生活アンケートを毎月実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	4. 2	3. 6	4. 7
自己評価についての評価結果および主な意見			
毎月生活アンケートを行い、その後「相談したい」にチェックをつけた生徒に対して個別に聞き取りを行っている。そのことから「安心して通える学校づくり」につながっている。また、生徒と教員相互の信頼関係を築くことができた。課題としては、家庭との協力体制を確立して、いじめの未然防止に取り組む必要がある。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
生活アンケートを実施する旨を学年便り等で家庭に周知する機会を増やし、家庭と協力しながらいじめの早期発見に取り組んでいく。また、定期的な班長会や個人面談を通して、クラスや生徒個々の様子を把握する。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
11 地域の人材を活用しながら、多様な職業や価値観、社会情勢の変化を理解させる。	4. 2	3. 7	4. 8
自己評価についての評価結果および主な意見			
1年生では、豊中ハローワークを通じて、働くことの意義を学び、考えをまとめ発表することができた。2年生では、起業体験において、社会に必要とされるサービスや商品を考え、発表することができた。3年生では、エントリーシートをもとに自分の将来設計を発表し、生き方の探求を行い、進路学習に取り組めた。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
地域人材を活用して、総合的な学習の時間、各教科等で、地域人材を活用した出前授業などを計画する。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
12 全校集会・朝礼・学年集会の講話を工夫し、人生観や生き方について考えを深めさせる。	4. 1	3. 0	4. 5
自己評価についての評価結果および主な意見			
教師が自分自身の経験や生き方、社会の問題について語る場面が多く見られた。しかし、多様な価値観や生き方に触れる機会が不十分である。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
教師だけでなく、地域の方や大学生など、第三者の話を聞く機会を設ける。そして生徒が講話から感じたことや考えたことを、夢手帳に記録させる。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
13 学校経営計画に基づき、温かい雰囲気の中で生徒が安心して生活できる学校をつくる。	4. 2	3. 8	4. 9
自己評価についての評価結果および主な意見			
生徒の悩みや困りごとを、教師が夢手帳の記録やアンケート等から敏感にキャッチすることで、早期対応につなげている。ピア・サポートプログラムを、引き続き意図的・計画的に実施する。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
ピア・サポートの精神を全校で共有し生徒会を中心に人間関係づくりの取組を発信させる。また、対話ができる力を身に付けさせるために、委員会や学級会を対話の場として設定し、多くの経験値を積ませる。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
14 係活動や委員会活動への取組をしっかりと行えている。	4.3	4.1	4.6
自己評価についての評価結果および主な意見			
多くの生徒がしっかりと取り組んでいる。これからも豊玉中の一員として、主体的に委員会活動や係活動に取り組ませ、PDCAサイクルを回させる。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
ボランティア登録制度の活動をより活性化させ、学校外での自発的な活動の場づくりを行う。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
15 合唱コンクールに真剣に取り組み、達成感を得ることができた。	4.5	4.2	4.7
自己評価についての評価結果および主な意見			
生徒が短期間の練習に集中し、行事の目的を意識して真剣に取り組むことができた。全体的に生徒の成就感も高い。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
多くの行事の実施を通して感動を味わわせ、生徒の心の成長を実感することができた。今年度は、指導の重点に「プレゼンテーションや表現する活動の充実」を位置付けたが、次年度も表現活動の充実を図ることで、感動による心の成長を促す。			

評価項目	生徒	保護者	教職員
16 命の授業を通して、命の大切さについて学ばせる。	4.5	4.1	4.8
自己評価についての評価結果および主な意見			
体験に基づいた話を聞くことで、命の大切さをより実感できたといった生徒が数多く見られた。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
講演会をより有意義なものにするために、事前学習や事前の展示を充実させ、生徒のモチベーションを高めて当日に臨ませる。			

2 学校関係者評価の結果

(1) 総括

- ①成果… 3年生での全国学力・学習状況調査の結果や生徒アンケートを基に数値による検証を行った。その結果、国語の数値が顕著に向上し、学力向上プロジェクトの成果が表れていること。また、学校経営計画に基づき、温かい雰囲気の中で生徒が安心して生活できていることが評価された。
- ②課題… 昨年同様、個に応じた指導の充実が課題に挙げられた。授業で学習の躓きを感じている生徒に、各教科で強制的に宿題を出すのではなく、家庭学習の習慣を身に付けさせるための働きかけや支援を行うことが課題である。
- ③改善策… 授業に関しては、生徒が考えたい課題や、仲間と協働したいような課題を授業者が工夫すること。思考ツールを活用し、学習を活性化させるための教師によるファシリテート力の向上に取り組む。全ての教科で、次の授業で学ぶことや何を準備してくればよいかを伝え、生徒の家庭学習に対する主体性を引き出すような工夫をする。

3 学校評価結果の公表等

- ・学校ホームページで、7月と12月の教育調査の結果を、12月と3月に公表
- ・保護者・地域に向けて、学校だより特別号で12月と3月に調査結果を公表
- ・3月22日の1・2学年保護者会で、教育調査の結果を説明する予定

4 次年度の学校改善に向けた校長の見解

(1) 課題と改善策

本校は、「家庭学習の習慣を身に付けさせるための支援」や「講話を工夫し、人生観や生き方について考えを深めさせる」、「夢や志をもち、困難を乗り越え、幸福な人生の創り手となっていけるような支援」等に課題があります。これらすべての課題を解決し、生徒や保護者・地域の方々から信頼される学校にするために、「目標・夢・志の実現」に向けて試行錯誤するスキルを身に付けさせて、「学びの主体者」として成長させます。

(2) 「豊中プラン2023」の確実な実施

次の5つの重点プランを確実に実行することで、学校改善を確実に図っていきます。

① 学力向上プロジェクト論理的思考力

豊中スタンダードの確立を目指した学力向上プロジェクトの3年間が終わった。令和4年度から次の段階（研究の第2フェーズ）に移行している。課題や問題に対して筋道を立て要素を細分化したり、積み上げて考える「論理的思考（ロジカル・シンキング）力の育成」に着手している。学力向上プロジェクトを学びのスキルの習得・活用期と位置付けて、思考ツールの活用を中心とした授業改善に取り組んだ。今年度は、教員の思考スキルの獲得と、生徒の思考ツールの活用に取り組む。

② ピア・サポートの日常生活での実践

研究の検証を行う中で、ピア・サポートプログラムを活用して学級のリレーションづくり（人間関係づくり）を行うことは、学力向上に欠かせない要素であり、温かい雰囲気醸成しいじめの発生を減少させる結果となった。昨年度は、ピア・サポートプログラムを全校体制で実施したが、普段の生活に生かすことが不十分であった。今年度は、実生活に結びつくよう生かす場面を確保する。

③ プレゼンや表現活動による心の成長

昨年6月に実施した「運動会」での集団演技や、7月に2学年で実施した「事業計画発表会」。形を変えて実施した10月の「合唱コンクール」や1学年で実施した「職業探求の発表会」など、多くの行事の実施を通して感動を味わい、生徒の心の成長を実感することができた。今年度も指導の重点に「プレゼンテーションや表現する活動の充実」を位置付け、感動による心の成長を促す。

④ 地域ボランティア活動の見直し

本校では、地域ボランティア活動が定着し、地域の方から大きな期待と高い評価を得ている。ボランティアへの参加を希望する生徒を対象とした年間登録制度の「ボラバンク」や、地域や学校に貢献できる生徒「ボランティア・リーダー」の育成を行っている。コロナ禍も明るい兆しが見えてきた中で、リーダーによる機会の開発と生徒会による呼びかけで、主体的な活動へと活性化していく。

⑤ 体験に学ぶ「命の授業」の継続実施

過去から学ぶことを通して命の尊厳や重みを実感させるために、道徳授業地区公開講座に講師を招聘し、令和元年度から取り組み始めた「命の授業」を継続実施する。今年度は、終戦時の旧満洲からの引揚者を招き、実体験の話を通して「平和の尊さ」や「生き方」について考えを深めさせる。